

U.S. Indicators

米国 米景気の堅調持続を示唆(17年4月ISM非製造業・総合景気指数)

発表日：2017年5月3日（水）

～政策効果はないが、景気は循環要因で堅調～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

ISM非製造業景気指数

| | 総合指数 | 活動指数 | 新規受注 | 雇用 | 入荷遅延 | 受注残高 | 仕入価格 | 新規輸出受注 | 輸入 | 在庫変動 |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|--------|------|------|
| 16/04 | 55.7 | 58.8 | 59.5 | 53.3 | 51.0 | 51.5 | 53.3 | 56.5 | 54.0 | 54.0 |
| 16/05 | 53.6 | 56.0 | 54.8 | 50.9 | 52.5 | 50.0 | 54.7 | 49.0 | 53.5 | 54.0 |
| 16/06 | 56.1 | 58.8 | 58.9 | 52.5 | 54.0 | 47.5 | 54.6 | 53.0 | 54.0 | 55.5 |
| 16/07 | 54.9 | 58.9 | 58.5 | 51.3 | 51.0 | 51.0 | 52.3 | 55.5 | 53.0 | 54.0 |
| 16/08 | 51.7 | 52.4 | 52.0 | 51.0 | 51.5 | 49.5 | 51.8 | 46.5 | 50.5 | 48.0 |
| 16/09 | 56.6 | 59.8 | 59.6 | 56.0 | 51.0 | 52.0 | 53.5 | 56.5 | 51.0 | 51.5 |
| 16/10 | 54.6 | 58.1 | 57.7 | 52.2 | 50.5 | 52.0 | 55.8 | 55.5 | 53.0 | 52.0 |
| 16/11 | 56.2 | 60.3 | 57.4 | 55.2 | 52.0 | 51.0 | 55.6 | 57.0 | 54.0 | 51.5 |
| 16/12 | 56.6 | 60.9 | 60.7 | 52.7 | 52.0 | 48.0 | 56.1 | 53.0 | 50.0 | 52.0 |
| 17/01 | 56.5 | 60.3 | 58.6 | 54.7 | 52.5 | 50.0 | 59.0 | 48.0 | 54.0 | 48.0 |
| 17/02 | 57.6 | 63.6 | 61.2 | 55.2 | 50.5 | 54.0 | 57.7 | 57.0 | 51.0 | 52.0 |
| 17/03 | 55.2 | 58.9 | 58.9 | 51.6 | 51.5 | 53.0 | 53.5 | 62.5 | 56.5 | 48.5 |
| 17/04 | 57.5 | 62.4 | 63.2 | 51.4 | 53.0 | 53.5 | 57.6 | 65.5 | 53.0 | 52.5 |

(出所) ISM

非製造業景気指数は 57.5と前月比2.3%ポイント上昇

17年4月のISM非製造業景気指数(季節調整値)は、57.5と前月比2.3%ポイント上昇、高い水準となっており、非製造業部門の堅調さ維持を示している。ISMは、4月の57.5という水準はGDPが前期比年率で+3.3%成長していたときの水準と指摘している。総合指数の算出項目をみると、雇用が小幅低下した一方で、新規受注、活動指数、入荷遅延が上昇した。寄与度では、雇用が前月比▲0.05%ポイントの押し下げ寄与となった一方で、新規受注が前月比+1.08%ポイント、活動指数が前月比+0.88%ポイント、入荷遅延が前月比+0.38%ポイントの押し上げ寄与となった。全ての構成項目が拡大縮小の分岐点となる50を上回っているうえ、新規受注、活動が内外需要の拡大により高い水準を維持しており、全般的に良好な内容。

また、拡大した業種数は、全18業種中17業種(3月15業種)と増加し、ほぼ全業種で拡大。拡大した業種(下線は拡大、縮小が2カ月以上続いたことを示す)は、芸術・娯楽・レクリエーション、公益、卸売業、不動産、企業向けサービス、情報産業、専門・科学・技術サービス、小売業、建設業、その他サービス、金融・保険、公的部門、医療・社会支援、教育サービス、鉱業、運輸・倉庫、宿泊・飲食サービス。

報告された回答者のコメントの大半で、事業環境と全体的な経済状況について肯定的な見通しが示された。政策の不透明感や地政学リスクを懸念している業種があるものの、現状は堅調な状況。建設業では、事業規模の拡大、より多くのプロジェクトの問い合わせを受けていると報告。また、金融・保険では、第2四半期のスタートは、予想よりもわずかに少ない利益になっているかもしれないが、機会はまだポジティブと指摘された。医療・社会支援では、活動は安定しており、医療改革とその組織への影響を待っている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

と報告された。宿泊施設・食品サービスでは、北カリフォルニアで続く雨が、冰山レタス、ブロッコリー、ナパキャベツ、ロマネスコなどの野菜の品質を低下させ、価格を押し上げていると指摘された。

小売業は、市場で弱さが懸念されているが、2017年第2四半期、第3四半期、第4四半期の見通しが全体的に前向きと報告。企業向けサービスでは、楽観的な見通しだが、北朝鮮問題のような地政学的な不安定性を考慮し慎重と指摘された。卸売業では、2017年の最初の3ヶ月間が2016年の最初の3か月間の売上高を上回っていると報告された。

一方、縮小した業種数は農林水産業の1業種（3月3業種）と減少した。

ISM総合景気指数は米景気の堅調さを示す

米国経済全体の景気動向を示す「ISM総合景気指数（非製造業景気指数と製造業景気指数で合成）」は、4月に57.2と3月の55.4から1.8%ポイント上昇した。四半期で見ると、57.2と1—3月期の56.5（10—12月期55.6、7—9月期54.1、4—6月期54.8、16年1—3月期54.0）を上回っており、4—6月期の米国景気が堅調さを維持していることを示している。

ドル高や中国経済の減速による需要抑制の続くもとで、雇用・所得の増加や資産価格の上昇等による個人消費の再加速や、企業業績の改善などによる設備投資の増加を背景に、米景気は堅調さを維持するとみられ、ISM総合景気指数は当面現状程度の高い水準で推移すると予想される。

